

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

113号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961

<http://www.peace-wing-n.or.jp>

■平成19年度平和推進協会事業計画

■広島研修会を開催

■平和案内人第3期生を募集

■祈念館だより

■慰霊碑巡り案内

祈りは、永遠へ



平成19年度
財団法人

長崎平和推進協会 事業計画

Ⅰ 一般事業

1 発刊事業

(1) 会報「へいわ」の発行

協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するとともに、会員相互の連携を図ります。

(2) ブックレット「平和のあゆみ」の発行

協会の年間を通じた平和意識高揚のための取り組み、活動状況、事業実施状況等をまとめたものです。

(3) 広報活動費

情報ボックス、インターネットの活用等により、協会活動の周知を図ります。

2 啓発事業

(1) 被爆体験講話の実施

被爆の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などに被爆体験講話を実施します。

(2) ピースネットの実施

東日本（北陸、中部、東海地方を含む）・県内離島・沖縄県内の小中学生に対し、インターネット会議システムによる平和学習を実施します。

(3) 講演会等の開催

平和問題への認識を深めるため、講演会を開催します。

(4) 国連軍縮週間行事

国連平和と文化の国際年を記念した国連軍縮週間（10/24～10/30）に「市民のつどい」を実施し、若い人たちが参加しやすい催しなどを行います。



▲平和案内人派遣事業（自主研修の様子・平成18年6月）

3 調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

4 育成事業

(1) 部会活動

会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るための活動を行います。（継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会）

(2) アジア青年平和交流事業

日本の若者とアジア諸国の若者が、お互いの国を訪問し、文化・歴史を学び、現地の人々との意見交換や交流を通して、相互理解を促進し平和意識の向上を図ります。

(3) ボランティアの活動支援



▲アジア青年平和交流事業（マレーシア訪問・平成18年8月）



▲慰霊碑巡り（継承部会・碑巡り班・平成18年11月）

平和活動の担い手となる学生ボランティア及び外国語ボランティアガイドの活動支援を行い、平和認識の視点や観点を醸成します。

(4) 平和事業への支援

協会の活動趣旨と一致する音楽会や講演会、シンポジウム及び外国人弁論大会などの活動を助成し、平和事業を推進します。

(5) 秋月グラント

被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ助成します。

(6) 平和案内人の派遣事業

平和案内人を、主に観光客を対象とした碑めぐりや資料館、祈念館等の案内ガイドとして、派遣します。

(7) 平和案内人の育成事業

高齢化している被爆者の被爆体験を継承し、被爆建造物や資料館等のガイドができる平和案内人を育成することにより、地元長崎の人たちや修学旅行生の原爆・平和に対する理解を深め、被爆の実相を広く後世へ伝えま

II 受託事業

長崎市や国から委託を受けて次の事業を行います。

- 1 長崎原爆資料館観覧料収納・受付案内業務
- 2 長崎原爆資料館図書資料整理業務
- 3 青少年平和交流事業
- 4 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

III 収益事業

原爆・平和に関する図書や平和意識啓発普及のための物品などの販売を長崎原爆資料館の図書販売コーナーで行います。

平成19年度収支予算

(単位:千円)

収入		本年度	前年度	比較
一般会計	基本財産運用収入	24	15	9
	会費収入	4,480	4,480	0
	補助金収入	28,525	31,737	△ 3,212
	寄附金収入	1	1	0
	基本財産収入	1	1	0
	繰入金収入	1,800	1,800	0
	雑収入	1	1	0
	一般会計合計	34,832	38,035	△ 3,203
特別会計	受託事業	275,783	272,403	3,386
	収益事業	25,000	25,000	0
	特別会計合計	300,783	297,403	3,380
収入合計	※ 335,615	※ 335,438	177	

※特別会計(収益事業)から一般会計への繰入金1,800千円を含む。

支出

支出		本年度	前年度	比較
一般会計	(1)発刊事業	2,524	3,003	△ 479
	(2)啓発事業	1,620	3,120	△ 1,500
	(3)調査研究事業	200	200	0
	(4)育成事業	7,289	7,601	△ 3,212
	(5)推進対策事業	561	561	0
	管理運営事務	22,637	23,549	△ 912
	基本財産預金	1	1	0
	一般会計合計	34,832	38,035	△ 3,203
特別会計	受託事業	275,783	272,403	3,380
	収益事業	25,000	25,000	0
	特別会計合計	300,783	297,403	3,380
支出合計	※ 335,615	※ 335,438	177	

※特別会計(収益事業)から一般会計への繰入金1,800千円を含む。



▲朗読と追悼のしらべ(平成19年2月)

【継承部会員】
【平和案内人】

広島研修会を開催

体験者の気持ちに立って

平和案内人 富永弘美

被爆体験のない私に、原爆被害の実相を
はたしてどれだけ伝えることができるのだ
ろうか。今回の研修は、私が平和案内人の
活動を始めて以来抱えてきた疑問に、正面
から向き合ういい機会を与えてくれました。
昨年末より継承部会の方々と交流も始ま
り、同行できる今回は、色々なお話を聞く
ことが出来るという期待もありました。1
日目の交流会では、やはり共通の悩みとし
て、伝えることの限界性について話し合
いました。その時、継承部会の濱崎さんが自
分の体験を交えて話されました。原爆が落
とされたとき、10km離れた香焼に行つてい
て助かったこと。工場に行つたお兄さんが



翌日になっても帰って来なかったこと。死
体が散乱した町を歩き、ひどい火傷を負わ
れた人を見て、怖いとかかわいそうだと
思わなかったこと。数日後、これがお兄
さんの骨だと言われて持ち帰り、そのこと
をお母さんに言うと、お母さんが「そう」
とだけしか言わず、涙も流さなかったこと。
のちにお母さんに「泣かなかったんじゃな
い、泣けなかつたんだ」と言われ、自分も
泣いていなかったことに気がついたこと。
これらのお話を聞き、私は強い衝撃を受け
ました。これまで私は、人間を焼き殺す原
爆の残酷さや悲惨な被害を伝えるために、
講座を受講し、色々な資料を読み、平和案
内人たるべき努力をしてきたつもりでした。
しかしその活動の中で、実際に原爆を体験
した人たちの気持ちに立っていなかったこ
とを痛感しました。本当に伝えなければな
らないのは、あの惨状の中で、怖いとかか
わいそうとかいう、人間らしい感情を奪
い取られ、涙も流せない状況に追い込まれ
てしまうということ。そのことを含めた原
爆の実相を、私は伝えていかなければなら
ないと思いました。そのためには、もっと
被爆された方たちの証言を聞き、自分が思
ったことを自分の言葉で伝えていくことが
必要だと思えます。

2日目には、ヒロシマピースボランティ
アの細川さんの案内で、原爆遺跡を巡りま
した。その中で、被爆後61年の間に、その
ときの悲惨な記憶ゆえに一度しか行つたこ
とのない旧中国軍管区司令部地下通信室に
案内していただきました。唯一訪れた時も、
知人にぜひ知ってもらいたかったからで、
今日以降、二度と行かないでしょうと言わ

れたその地下室は、原爆の被害に遭われた
人たちが非難してきた場所であり、今でも
鬼気迫るものがありました。私は、細川さ
んの心の中に61年経つてもこの場所が、原
爆の消えることのない傷跡として残ってい
るのだと思いました。しかし、つらい場所
であるにもかかわらず、私たちに伝えるた
めに案内してくださったことに心を打たれ
ました。細川さんの気持ちに伝えるため
も、今後の広島・長崎の交流を発展・継続
していくことが大切だと思います。

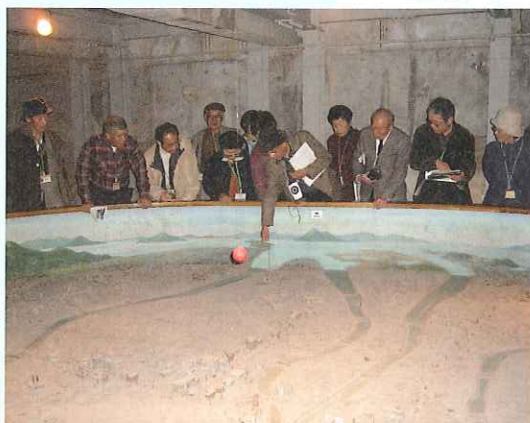
以上

もっと議論を続けたい

平和案内人 池田道明

二月十九日、継承部会員、平和案内人、
事務局、総員三十九名が広島研修会向けに
出発した。研修とはいえ、なんだかツア
ーのお客様風に毎ビルでもといいたくなる
気分でした。しかし、事務局の方では一家
言有る人達の集団なので、いろいろ気遣い
をされているという事がよく判りました。
駅のホームや車中など移動する度に員数確
認など頻繁に行っていたのもその表れと思
われました。

広島へ到着するなりすぐバス移動で着い
た所が平和公園、そこには広島島のピースボ
ランティアの人達が待ち構えて居り、早速
各班に分かれて原爆遺構巡り、原爆資料館
では、又別のボランティアガイドに依る案
内という段取りになって居り、一泊二日の
慌ただしいスケジュールの為、合理的な時



間配分は広島島のピースボランティアや証言
者との交流会まで全く無駄のないものでし
た。

次に、研修旅行のメインイベントである
広島・長崎のボランティアガイドに依る交
流会が午後三時から午後五時半まで行われ
た。

広島・長崎のメンバーを六班に分け、それ
ぞれの班で活発な議論が行われた。テーマは
「被爆体験のない者が被爆をどう継承してい
くか」というものでした。

結果、各班の意見を纏めて発表された。ど
の班も表現の違いはあっても、証言者達の話
をより多く聴く事により、被爆者と同等の被
爆継承が可能になるというものだった。

全体的な会の流れをみると、友好親善が
目的のよう、広島・長崎相手とも議論す
る事に遠慮した様な部分が見受けられた。
この交流会の感想としては、皆さん大なり
小なり、消化不良の感を抱いたのでではな
かったかと思われます。

しかし、広島研修の当初の目的は充分に
果たせたと思います。今度は長崎でお会い
しましょうという言葉で手を振って別れた
場面はまだ眼裏にはつきりと残っています。

伝え方に自分流の工夫を

継承部会員

原田美智子

心の中で手を合わせていました。

2月19日・20日とお天気にめぐまれ平和案内人20名、継承部会員14名、事務局の方と早朝長崎を発ちました。以前私が住んでいた頃の広島とはすっかり変わってしまいました。広島駅周辺、市の中心地、平和公園等は高層ビルやマンションが立ち並び近代平和都市ですが中国地方の大都会だと感じました。ピースボランティア

の方々のガイドは非常に素晴らしく誠意を感じられる案内で原爆資料館、爆心地周辺の説明に聞き入りました。資料館は長崎原爆資料館の約2倍の広さでゆったりとしたスペースで資料や展示品が分かりやすく説明されており時間が足りないくらいでした。

当時、原子爆弾によって広島市の大部分が壊滅し建物は一軒も残らなかったそうです。現在の平和公園は昭和20年8月6日の原爆投下時は住宅地だったそうです。

広島市民はそれまで普段と変わらない生活をしていました。一発の原子爆弾で人々の人生が消え生き残った人々は今も痛みや苦しみが続いています。ヒロシマもナガサキも同じ苦しみに耐えながら暮らしています。原子爆弾の脅威と悲惨さをあらためて思い遺跡めぐりをしながら

交流会では若い人達にどのように被爆の現状を伝えるべきか意見を出し合いました。ただ伝え方には自分流でいいから工夫しなければいけないと思いました。

二日目の御堂義之先生の被爆体験講話では広島は軍都、学都の町であった為に原子爆弾が投下され多勢の人々が犠牲になり生き残った人々は貧しいながらも生きる力をふりしほつて今も生きていると心の痛みを話されました。被爆者として共感し胸を打たれました。次世代の人達には想像力をつけ被爆者の心をつかんでほしいとも言われました。

午後からはバスに乗って車窓から見える被爆建物をピースボランティアの方が丁寧に説明して下さいました。広島城周辺では護国神社や旧中国軍管区司令部の地下室等、又旧広島通信局通信病院等を見て回りました。広島を歩いて、見て、聞いて、知ることにより被爆者として語り継ぐ重要性を再認識した旅でした。



見る・聞く・考える・話し合う

— 広島研修のもたらすもの —

継承部会員

濱崎 均

“広島”を学び“沖縄”を学ぶということ
は長崎に住み、核兵器と戦争のない世界を求める人にとっては大事なことです。

今回、長崎と広島
の被爆証言者、平和案内人、ヒロシマピースボランティア合同の研修会が開かれたことは意義のあることでした。

二日間の日程の中で広島の方との交流は五回ありました。一日目、相生橋から平和記念公園までの案内(四班)、広島平和記念資料館、長崎・広島
の交流会(六班)。二日目、広島被爆者の体験講話と、バスで移動しながら被爆遺構等の案内です。

案内はともに三人の方に
していただきましたが共通していると感じたのは、広

島の歴史、特に軍都と学都であったことを念頭に置いて案内しておられたことです。案内する対象についても造詣が深いように思いました。これまで何回も広島に行き、案内していただいたこともあり、案内が初めて行った所もあり、そこで人間がどう動いたか、死が訪れたかを知ることができました。

交流会で初めて長崎の平和案内人、広島の方とも話しましたが、悩みの二つは非被爆者が被爆をどう伝えればいいのかということでした。関東から広島に来たというご婦人が、広島に来て初めて峠三吉の詩の意味がわかったと話されたのは興味深いことでした。

被爆体験講話のあと質問の時間があり、私も、劣化ウラン弾について、広島では国際会議があるなど関心が高いので修学旅行生への講話で劣化ウラン弾について話しますかと尋ねましたら、話すということでした。

知らないことを学び、話し合っ
て考えを深め、原爆・戦争・平和を現在の世界日本
の動向とからめ、どう伝えるかという課題を頂いた研修でした。

来年は長崎で、という思いも
しました。

平和案内人第3期生を募集

被爆の実相と平和の尊さを伝えるボランティアガイド「平和案内人」の3期生を募集します。

平和案内人は、平成16年に第1期生の育成講座を開始し、平成17年4月から活動を開始しました。現在の主な活動内容は、長崎原爆資料館や追悼平和祈念館で来館者に展示物の解説を行う「資料館・祈念館ガイド」と、主に修学旅行生に向けて爆心地周辺の被爆建造物を案内する「碑めぐりガイド」です。活動開始から2年が経過しようとしている中で、利用者も少しずつ増え、その存在が定着してきています。

被爆者の想いを未来へ繋ぎ、平和への願いを二人でも多くの人に伝えていくために、皆様のご協力をお願いします。

講座期間 5月8日(火)～7月31日(火)※
月4回程度、全13回。
火曜日18時30分～20時、土曜日13時～16時。



場所 長崎原爆資料館 平和学習室ほか

対象 満18歳以上で、当協会の会員として登録し、10月から「資料館・祈念館ガイド」「碑めぐりガイド」を含め、月に2回程度以上活動できるかた。

定員 20人

申込方法 会報「へいわ」同封の申込用紙に必要事項を記入し、(財)長崎平和推進協会(〒852-8117長崎市平野町7-8)へ郵送もしくはファクス(095-844-9961)でお申し込みください。

申込期限 4月25日(水)必着

佐世保戦跡巡りに参加して

財団法人長崎平和推進協会

栗浦恵美

去る二月十日(土)、天候にも恵まれ、長崎市と当協会の共同事業である青少年ピースボランティア学習会において、県北部の平和関連施設見学が実施されました。

長崎被爆の実相を伝える平和案内人も兼ねている木原 秀夫氏を講師に迎え、総勢二十名程度で原爆資料館を出発しました。

佐世保までのバスの車内では木原氏から、通り行く街の歴史などを聞かせていただき、新しいことを開拓する充実した時間を過ごすことができました。

今回は、針尾無線塔や浦頭引揚記念公園、佐世保空襲資料室、及び川棚魚雷艇特攻殉国の碑、という日程での見学でしたが、佐世保方面は同じ長崎県内に在りながら、その被害状況や特色は長崎市とは遙かに異なるものでした。

昨年十二月に戸尾小学校跡に開設した佐世保空襲資料室においては、佐世保空襲犠牲者遺族会、及び佐世保空襲を語り継ぐ会の方々が、佐世保が受けた戦争被害等について

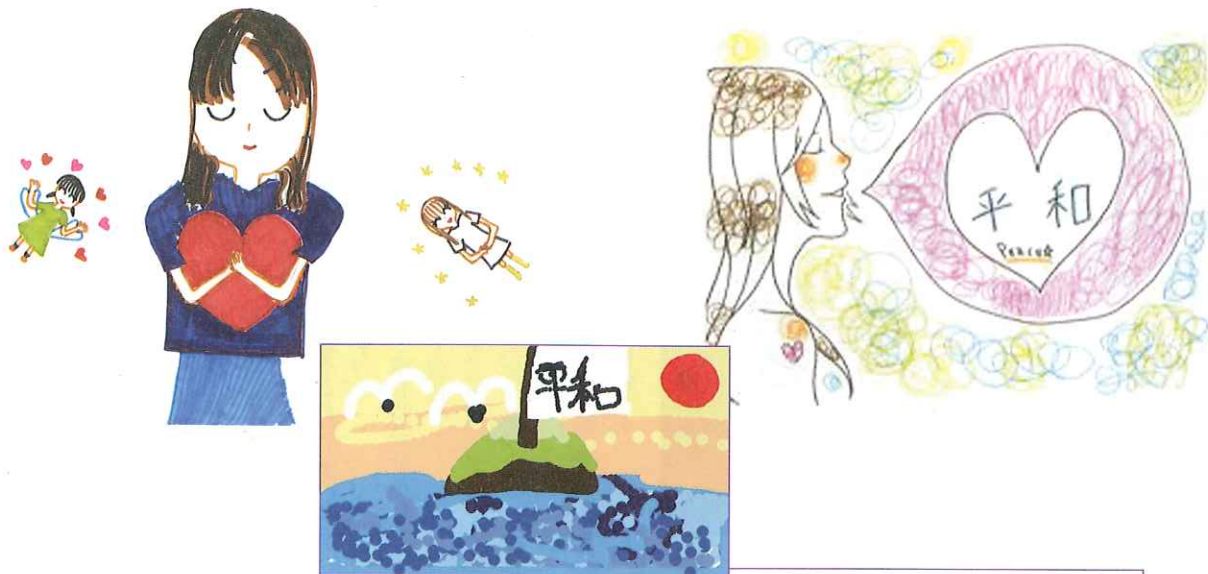


説明してくださいました。空襲による被害のほか、私は次のような引揚げ者の話が印象に残りました。

浦頭に上陸した引揚げ者は、南風崎駅から汽車に乗ってそれぞれの故郷へ向う訳ですが、それまで張り詰めていた気力が途切れ、帰路、病気などで命を落とす方々も少なくなかったそうです。戦争に翻弄され、必死の思いで故国の土を踏んだ引揚げ者の方々は何を想いながら亡くなっていったのでしょうか。

また、木原氏による特攻艇についての説明の中で、「助からないことが解っているにも尚、厳しい訓練を耐え抜き、敵船に体当たりしていった若者達」との言葉も、強く胸に残りました。彼らもまた、その家族や友人にとつてかけがえのない命であり、戦争の犠牲者であったと思えます。

今回の学習を通して、物質的・心情的に「戦争被害」という観点から学び、原爆の被害を知ることが必要不可欠であると感じました。



平和



追悼平和祈念館

2月24日・「朗読と追悼のしらべ」が開かれました

よく晴れた土曜日、朝7時広島発の列車に乗り、被爆の想いを伝える広島からの朗読ボランティアが祈念館を訪れました。

今まで何百件もの朗読を広島市内で小中学生を前に行っているボランティアの宮川さん、森岡さんですが、今回初めてギター演奏とともに朗読をおこなうためか、少し緊張した面持ちでした。

今回ギターの演奏を行なう山口修さんは、長崎市内のみならず、全国を巡り、歌手である純子夫人との息の合った演奏に定評があります。

山口さんはお二人のボランティアに「大丈夫です、いつもどおり朗読してください。こちらで合わせますから」と緊張を和らげておられました。

館長あいさつが始まる頃には交流ラウンジの90席が満席となり、来場者は約2時間の朗読と演奏の間、時の経つのも忘れてしまうほど朗読と演奏に聞き入っていました。

朗読によって原爆の残忍さ、人の亡くなる事の悲しさをあらためて感

じ、涙されている方も多数いらっしゃいました。

長崎において平和案内人が被爆の実相を修学旅行生や観光客に伝えるように、朗読も継承の一つの方法であると実感した一日でした。



慰霊碑巡りを実施します

今回の慰霊碑巡りは、暖冬のせいか、一足早い春の訪れを感じながら、平和町の天主公園に集合、浦上天主堂から長崎大学医学部と付属病院、山王神社・大楠付近までを巡ることにしています。どなたでも参加できます。

開催日時：3月25日(日) 午前9時50分集合

午前10時出発～12時終了

コース：天主公園～浦上天主堂～長崎大学医学部～同付属病院～歯学部～山王神社(大楠・鳥居)解散

※小雨決行。案内は、継承部会・碑巡り事業班が行ないます。参加費は無料です。



昨年11月の碑巡りの様子。
清水町・照圓寺住職さんに当時の惨状を聞きました。

会費納入のお願い

本年度も残すところ、わずかととなりました。会員皆さまの格別のご助力を賜り様々な事業を実施することができました。

新年度も限られた予算の中で、意義ある事業を展開してまいりたいと考えております。

皆さまが、毎年納入くださる会費が、会報「へいわ」の発行や、「講演会」、「市民のつどい」などあらゆる事業を展開していく中で大きな財源となります。

どうか、会費が協会の活動を大きく支えていることをご理解いただき、今年度まだ納入されていない方は、郵便局でお払い込みいただきますようよろしくお願いいたします。

口座番号 01830514286

財団法人 長崎平和推進協会

寄附者紹介

12月から2月現在

- ・ 山本 利子 (十万円)
 - ・ 本杉 美智子 (五千元)
 - ・ 本田 貞勝 (二十七百円)
 - ・ 財団法人 広島県相互扶助会 (十万円)
 - ・ 永田 英一 (二十七百円)
- (敬称略)

会員数報告

維持会員	1,323名
賛助会員	162名
臨時会員	3名
学生会員	6名
合計	1,494名

平成19年2月28日現在

原爆資料館からのお知らせ

原爆資料館常設展示室の一部コーナーがリニューアル

平成19年4月1日から、原爆資料館常設展示室の一部コーナーの展示がリニューアルされます。平成8年4月の原爆資料館開館以降の新たな情報の追加や、展示内容を来館者に理解しやすいようにすることを目的として、来館者に理解しづらい「放射線による被害」コーナーや、核兵器開発の歴史や、戦後の国際情勢、長崎市の平和活動等を紹介する「核兵器の時代」コーナーなどの一部コーナーの展示がリニューアルされます。